

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100308		
法人名	株式会社EPO		
事業所名	グループホームえん(さくらユニット)		
所在地	福岡県北九州市門司区田野浦二丁目9番33号		
自己評価作成日	令和6年8月30日	評価結果確定日	令和6年11月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和6年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナが5類に変わったことで、外出レクや行事の幅も広がっている。毎月、何かしらの行事を企画し、入居者様の楽しみにしてもらっている。SNS(インスタグラム等)も週1~2回は更新し、入居者ご家族やGHを探しているご家族にもえんの様子を見て頂けるようにしている。地域との交流も積極的に行い、地域の防災会議等にも出席している。地域の方も積極的に協力をしてくださり、回覧板の活用等も勤めてくれている。感染対策委員会も定期的に開催し、同法人内の訪問看護にもメンバーに入って頂き、基本的な感染対策から今一度確認の意味を込めて各職員に実技指導を少しずつ行っている。排泄に関しても、できる限り日中はトイレでの排泄を心掛け、人間の尊厳を守れるように取り組んでいる。また、看取りケアに関しても訪問看護、主治医との医療連携がうまくとれており、最期の時までその人らしく生活して頂けるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の「介護の仕事に夢とプライド」を具現化するために、定例会議で運営者による「元気での言葉」を活用した講話が行われ、日頃の言動を見直すきっかけになっている。不穏状態を軽減する向精神薬の服用で自発的行為が減少する入居者の本来の姿を摸索し、立ち上がりや移乗時の転倒を予防したり、大声になる場面を回避しながら笑顔になる機会や場作りにも努め、明星新聞などで発信している。数年前に終末期を告知された方を昨年看取り、「介護のおかげで長生きできた」と家族の手紙を受け取っている。運営推進会議では明星新聞回覧の提案、地域行事や再開を要望されたマルシェに関する情報提供があり、家族の「楽しく暮らしてほしい」を実践したインスタグラムが「えん」となり、入居や見学の申し込みを受けている。土砂災害想定地域の地域密着型サービス事業所として地域防災会議で協力体制に取り組みなど、今後もホーム名称の「えん」の広がりが期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 さくらユニット／グループホームえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルーム、各ユニットに理念を目に付くところに掲げている。毎月の職員会議では社長自らが理念の根本にあるものを踏まえた研修を実施している。	理念の「介護の仕事に夢とプライド」を具現化するために、定例会議で運営者による「元気のでる言葉」の講話が行われている。職員は日頃の言動を見直すきっかけになると話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議での情報交換や地域行事への参加を出来る限り行い、回覧板を活用し、えんを知って頂くことに力をいれている。	市民センターで開催される行事の参加は恒例となり、運営推進会議の提案でホーム便りの明星新聞を回覧したり、マルシェ再開を要望されるなど、地域との「えん」が日常となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が飛び込みで介護相談をしにきてくださったこともあり、随時介護に関する相談を受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に地域の方々や利用者家族の参加も増えており、情報交換等、有意義な会議が出来ている。地域の方々の協力もあり、えんを知ってもらう方法やマルシェ再開に向けての情報を考えて下さっている。	全家族に、運営推進会議開催の案内や会議録を送付している。1階の地域交流室で家族や民生委員、地域代表などの参加で、運営状況を報告し、参加者から地域行事やマルシェに関する情報提供があり、整備した会議録はホーム入り口で公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは密に連携はとれていないが、運営推進会議や6か月に1回のGH情報交換会での情報交換や実情を伝えている。	毎月、担当部署にFAXしている居室情報は市のホームページで公表されている。骨折などの事故報告書の提出や、持ち回りで開催している同業者情報交換会の状況を報告するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での研修や外部研修を活かし、身体拘束委員会を中心に、身体拘束をしないための工夫等を行っている。転倒予防のために動きを止めてしまう声掛けや言葉などにも注意しあい繰り返しスピーチロックゼロに取り組んでいる。	定期的に委員会や研修を開催し、身体拘束適正化に取り組んでいる。不穏状態を軽減する向精神薬の服用で意欲が低下した状態に、入居者の本来の姿を摸索している。家族の意向や了解で、夜間のみセンサーを設置している入居者もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度も引き続き全体研修で虐待防止に関する事案で取り組んでいる。今年度は9月、10月と2回に分けて全体研修を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修のほかに内部研修を予定している。内部研修に関しては、研修を受けた職員が、資料をまとめ、職員へわかりやすく伝えるよう準備をし、内部研修で講師として伝達を行っている。	入居前から任意後見制度を活用している入居者もあり、随時日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用を紹介するために、事業や制度に関する資料を整備し、オンライン研修を受講している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できるだけ、契約前の説明でグループホームえんでの支援内容や重要視していることなどを説明。契約では、分かり易い言葉で内容説明を行うように心がけている。改定に関しては速やかにお知らせし了承を得るようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関しての意見などは中々うかがうことがない。必要に応じてはこちらからご家族等へ連絡し意見を伺っている。	定期発行の明星新聞やSNS、ラインで入居者の笑顔満載の暮らしぶりを報告し、家族が夏祭りにボランティアとして参加している。1週間毎に更新しているインスタグラムは好評で、家族のコメントがあったりインスタグラムが「えん」となり、家族の紹介で入居や見学の申し込みを受けている。	行事に参加された家族の「家族会開催を検討してほしい」との貴重な意見を、運営に反映されることを期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は毎月の会議で社長研修として講義され、意見などを聞くようにされている。管理者は、定期的に主任・リーダー会議を行い、職員の意見や要望に対し運営に反映できる環境作りを行っている。	定例会議は、率直な意見交換の場となっている。ソファが購入され、食事介助にかかる時間に配慮した勤務時間の変更や、会議を効率化するためにヒヤリハット報告を事前に確認しておくことなどが提案されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課により各自の努力や業務の成果などを反映できるようにしている。半年に一度の面談では職員の意見等を聞きながら、さらに向上心が持てるようにそれぞれに合った目標を一緒に考え、掲げている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関して、性別や年齢等で排除するようなことは行っていない。 職員についても、その職員の得意分野が活かせるように委員会や役割を持って業務に就いてもらっている。	法人でグループホーム職員として募集され、20～70代の男女の職員が夜勤専従や夜勤以外、時間短縮など、夫々の状況に応じて勤務している。産休中の職員もあり、シフトや休暇の希望が叶い、休憩室を設置している。外国籍の職員も先月から夜勤を務めるなど、人事考課を活用して人材育成に努めている。SNSなどの広報に力量を發揮する職員もある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	看取りケアまで行う施設として、個人個人を尊重し、最期までその人らしくいられるように支援している。職員に対しても言葉遣い等の指導を都度行い、必要であれば職員全体で意見交換を行っている。	スピーチロックゼロを目指し、身体拘束や虐待防止に関する研修などを通じて、入居者の人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	入居者の人権擁護と職員の人権擁護は同義であるため、カスタマーハラスメントを盛り込んだハラスメントに関する指針の整備や周知を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体研修として法人全体で毎年度研修を開催。他の事業所と意見交換を行っている。外部研修後は職員会議などで研修のまとめとして職員へ伝達を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH情報交換会や地域ケア交流会への参加を行い、他事業所のケアマネ等とのネットワークづくりを行った。そこで交流を行った歯科と連携を取り、口腔衛生に関する取り組みを始めるところである。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人から困りごとや、不安などは聞き取りにくいが行動や日頃の話などから探っている。入居後もコミュニケーションを密にとり、安心した生活が送れるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごと、要望に添えるようにサービス計画を立てている。家族が見えていないところや今後考えられることなども、メール等で連絡を取りながら、安心して利用して頂けるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントやカンファレンスを十分に行うほか、今必要なサービスを見極め、様々なサービスの選択肢を考え利用できるよう支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でそれぞれに役割を持って頂き、職員の手伝いをすすんで行って下さっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの落ち着いた段階での面会の再開やご家族との外出支援など行い、本人との時間を増やせるように取り組んでいる。また、夏祭りではご家族にボランティアとして参加いただいたりと協力を求めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の再開に伴い、仲の良い友人との面会も増えてきている。また、外泊支援として自宅へ戻り、馴染みの場所でご家族と過ごす支援も行っている。	1階の交流室にて、2名で15分程度の面会をお願いしている。週2回家族と1時間程度散歩したり、外泊する入居者もある。週1回ロバのパン屋が来訪し、携帯電話などで家族と話したり、年賀状送付を支援するなど馴染みの関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は皆さんがフロアで過ごされており、思いの場所でくつろがれている。利用者同士で声を掛け合ったり、昔話で盛り上がったりと、それぞれで楽しそうに話をされている。職員が仲介に入る事で、トラブル等を事前に防げるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了から暫くは管理者ともつながりが続いており、近況などを知らせてくださる。相談や支援についてはサービス利用にかかわらず気軽に声をかけて欲しい旨を伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向の把握が困難な方が多く、日頃の会話の中や生活の中での気づきを大切に、ご家族より情報収集し、これまでの生活情報などから本人本位に検討し把握するようにも努めている。	入居時に家族に記入をお願いしている生活情報や定期的なアセスメント結果、日々の気づきを全職員で共有している。骨折していても頻回に車イスから立ち上がろうとする入居者の、職員を手伝いたいや手を煩わせたくないとの思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や紹介者などから情報を聞き取り、生活歴の把握に努めている。これまでの暮らしの継続が一つでもできるようにケアプランに反映し、経過等の把握を行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、職員間で常に情報のやり取りをしている。なるべく本人の出来る事は小さいことでもして頂き、残存機能を活かした支援を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの更新前には職員会議でカンファレンスを行い、職員から多くの意見が聞けるようにしている。ご家族の意見、意向については面会時や電話にて伺うようにしている。	ケアカンファレンスや担当者会議で職員の気づきなどを集約し、現状に即したケアを実践している。「楽しく暮らして欲しい」との思いの家族が多く、立ち上がりや移乗時の転倒を予防したり、大声になる場面を回避しながら、笑顔になる機会や場作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はタブレットを使用し、日々の様子を細かく入力するよう職員に伝えている。またノートを使用し、簡単な申し送り事項を記入し、一目でわかるように共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しい情報交換や意見などを活かし、一人一人に合ったニーズに応えられるように情報収集をしながら柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある様々な施設で外出を楽しんだり、地域の行事に参加させていただいている。近くの商店街やコンビニに欲しいものがあるときや買い物レクとして買い物に行くこともあった。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、医療連携を図っている医師が4名あり、それぞれの医師と協力をして適切な医療の提供を行っている。また専門医への受診が必要な場合にも、ご本人やご家族の意向を優先し、かかりつけの専門医等へ受診支援を行っている。	運営規程に協力医療機関との連携を明記し、4名の連携医から訪問診療を受けている。専門医に内服状況を報告して適切な医療受診を支援したり、系列の訪問看護との連携で状態変化に対応している。今後は訪問歯科と連携し、口腔衛生に取り組む予定である。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一法人内の訪問看護えみのわと協働してご利用者の健康管理を行っている。何か特変や気になる事があれば、LINE等ですぐに連絡を取り、連携を図っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関しては変わらず、ご本人の生活情報などの提供を行っている。入院中や手術後の状態確認のためにも病院へ連絡をし、本人の状態を確認している。スムーズな退院の対応が出来るようにご家族とも情報共有を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居説明の際に看取りケアを行っていることを説明している。状態変化を見ながら早い段階でご家族には改めて看取りについての説明を行っている。えんで出来ることを説明し、ご家族の協力を得ながら、医療と連携を取り、看取りケアに取り組んでいる。	数年前に終末期を告知された方を、昨年看取っている。経口摂取ができなくなりスポンジブラシなどで口腔を清掃し、2週間後に逝去された。「覚悟しています」と1日おきに来所されていた家族から、「介護のおかげで長生きできた」との手紙を受け取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、入居者一人一人の緊急搬送先やそれぞれの主治医の連絡先を見えるところに掲示している。職員にも都度、対応の仕方等の指導を行い、管理者がいない場合でも対応できるように努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練実施とともに水害時の垂直避難などを行った。BCP作成を行い、BCPに対する訓練等の計画も立てている。運営推進会議でも地域の避難所の確認や課題等を話し合い、防災会議にも参加し協力体制を取っている。	消防署から通報や初期消火訓練の指導を受け、土砂災害地域のため地震の際はかえてユニットに移動することを申し合わせている。地域防災会議では避難所として受け入れボヤボランティア活動の協力の要請があった。台風襲来時は地域の方が避難され、感染予防グッズ、3日分の飲料水や食品など備蓄している。	BCPの訓練等の過程における課題や対応を運営推進会議や地域防災会議で報告し、災害発生時の協力体制に取り組みされることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは敬語を使うようにと指導している。言葉かけについて、気づきはすぐに注意しあい、常に職員の意識改善を図っている。	定例会で「元気のでる言葉」を運営者が講話し、入居者のみならず職員間の言葉かけにも留意している。氏名で呼称し、言葉や声の大きさが気になるときには、注意し合っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢があるものは本人に選んで頂いてる。また、希望を聞けるように声掛けの工夫を都度行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合で動くことも多々見られるため、その都度、何のためにしているのか等を考えて支援するよう伝えている。職員同士でよく話し、ユニット間で協力しながらご利用者に寄り添った支援ができるように工夫している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力もあり、好みの洋服の選択や季節に合った衣類の交換等行っている。お化粧をする方にもメイク道具の提供やお手伝いを行っている。お出掛けの際には帽子や普段着とは別の洋服を選んでおしゃれを楽しまれている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週金曜日にはロバのパン屋の訪問販売でパンを買って食べることを楽しみにしている。食事の盛り付けも見た目から楽しめるように気を付けている。食後の食器拭きは毎回手伝っていただいている。	惣菜は業者委託であるが、朝のパン食や希望の献立が叶い、ホームで刻みやミキサー食を用意している。自発的行動が乏しい入居者もソーメン流しでは笑顔となり、職員の声かけや見守り、介助で完食する入居者が殆どで、食器洗いが日課の入居者もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の確保が難しい方や食事動作が難しい方が多くなり工夫している。食事を拒否される方などには、パンを常備し、適宜パンを提供したり、果物やお菓子を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方は準備、声掛け、見守りを行いながら、ご自身で行ってもらっている。義歯の洗浄も毎食後行い、夜間は洗浄剤に浸け、清潔にしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄には力を入れているため、日中は2名介助でも座位が保てるのであればトイレ誘導を行っている。トイレ内での排泄があることでパットの使用量も減ったり、種類の変更があった方もおり、今後も排泄の支援は続けていきたいと思っている。	座位での排泄を目標として、日中は2人体制でトイレでの排泄を支援している入居者もある。夜間は心地よい排泄でぐっすり休んでもらいたいと、ポータブルトイレの使用やトイレ誘導、リハビリパンツの交換など、夫々の状態に応じて支援している。温タオルを常時用意し、感染防止に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃の水分量の確保や軽度の運動、腹部マッサージなどを行うことで定期的な排便があるようにしている。その方に合わせ、主治医と相談しながら、緩下剤を使用し便秘予防している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間が楽しめるように入浴剤を使ったり、同性介助を希望される方には希望に沿って入浴支援を行っている。リフト浴を設置したことで、今までシャワーのみだった方もゆっくりと湯船につかることが出来ている。	リフト浴槽と個浴槽が設置された浴室は清掃が行届き、週2回を目途に入浴を支援している。半数がリフト浴を利用し、季節によって菖蒲湯などを楽しんでいる。好みのシャンプーの持ち込みや同性介助の希望に応え、着脱や入浴拒否には対応を工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動していただき夜間の良眠に繋げている。必要な方には、1時間程度の午睡を取っていただき、休息をして頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状や副作用等で気になる事があれば、訪問看護や主治医へ都度相談し、内服薬の変更があるときは、経過観察を行い、主治医へ報告している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方々の出来る範囲での家事活動を促し、役割を持って頂いている。また、携帯電話を持っており、ご家族との電話を楽しみにされている方もいる。それぞれに気分転換や趣味事が出来るように支援を継続していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出支援も継続して行っており、一か月に一度娘様とご自宅に戻ったり、ご家族と外食をすることも出来ている。本人の希望を聞きながら、ご家族にもその旨を伝え、協力して頂くことで外出支援を継続していきたい。	家族との外出や外泊を支援し、近隣公園での花見や買い物などに出かけ、今秋も市民センター行事に参加する予定である。行事委員が年2回遠方へのドライブを企画したり、地区社協の案内で来月は車イスバスケット大会の見学を予定している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くの商店街への買い物レクやコンビニでの買い物、週1回のロバのパン屋で、自身にて支払いをして頂くよう支援を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は、自ら電話をかけご家族と話をしてもらっている。手紙のやり取りはなかなか出来ていないが、年賀状はご本人よりメッセージを書いて頂き、ご家族あてに送っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は安全に歩行できるように余計なものは置かないようにしている。季節に合わせた壁面の作品作りも継続しており、入居者にも手伝って頂きながら季節感を取り入れている。	エレベーターの左右に開所している玄関を入ると、行事の折りの笑顔満載の入居者のスナップが掲示され、壁には共同制作の季節の貼り絵が飾られている。共用空間は清掃が行き届き、空気清浄器が稼働し、厨房前には椅子やテーブル、テレビコーナーは座り心地良いソファが設置され、入居者の憩いの場となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見ながら、利用者同士で話をしたりテーブル席にて一人で過ごす時間も作ったりなど、共用空間でも好きなように過ごせる工夫を行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い、清潔に保っている。居室づくりもご家族様協力のもと、思い出の写真や作品を飾り、過ごしやすい空間作りを行っている。	全居室にベットやクローゼットが設置され、自宅から箆笥や仏壇、机が持ち込まれ、大きな遺影や家族写真、ぬいぐるみ、習字の作品などが飾られている。好きな読書やお化粧をされる入居者もあり、夫々が安心して自分らしく過ごせる居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りは全面に設置、安全に移動できるように動線には余分なものは置かないようにしている。		